

ガバナー月信



月信2月号

- ① ガバナーメッセージ
- ② 第1回交換留学生オリエンテーション、クリスマス会
- ③ IA 献血キャンペーン (新潟)
- ④ IA 献血キャンペーン (上越)
- ⑤ 米山記念奨学委員会報告
- ⑥ 米山記念奨学学生選考会について
- ⑦ 米山学友会活動報告 1
- ⑧ 米山学友会活動報告 2
- ⑨ 会員数報告
- ⑩ 地区主要行事予定 (2月・3月)
- ⑪ 新入会員紹介・計報
- ⑫ コーディネーターニュース
- ⑬ ハイライトよねやま



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度

高橋ガバナー事務所

〒950-8053
新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F
TEL : 025-222-2561 FAX : 025-222-2565



国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 ガバナー
高橋 秀樹 (新潟 RC)

皆様こんにちは。県内各地で最強寒波と豪雪の被害が生じていると思います。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。また、地区として何かできることがございましたら、是非ご連絡いただきたいと思ひます。

さて、今回は 2 点お知らせしたいことがあります。

先ず、このたび当地区では、地区研修委員会を設けることになりました。

ロータリー章典 17.030.2 には、地区で設けなければいけない委員会と、設けることが望ましい委員会が定められています。設けなければいけない委員会の内容として、財務、会員増強、公共イメージ、ロータリー財団、研修の五つがあります。これまで当地区では、研修に関しては、他の委員会や役職が兼務したりすることによって、その業務を行ってきました。しかし、昨年度から議論を進めて来た地区運営改善検討委員会から正式に提案があり、昨年 12 月の地区諮問委員会での意見も踏まえ、改めて地区研修委員会を設けることになりました。

しかし、突然新たな委員会が活動を始めるとも何かと難しいので、今年度は地区研修委員会準備委員会として発足します。7 月以降の米山年度から「準備」の字がとれて地区研修委員会になります。このような措置はタイムスケジュールの関係上必要なことです。地区の研修には、7 月からの年度開始のために 3 月に行われてきた会長エレクト研修セミナーや、5 月に行われてきた地区研修・協議会、あるいはガバナー補佐のための会議や研修など、年度が始まる前に実施しなければいけないものも少なくありません。しかし、米山年度のための会長エレクト研修セミナーや地区研修・協議会は、2 カ月後に迫っており既に実施内容が計画されています。そのため、地区研修委員会が実際にそのような研修のお手伝いを行うのは、南雲年度の準備を行う米山年度から、ということになります。1 月 28 日には早速第 1 回の地区研修委員会準備委員会が開催されました。

以上の件については、1 月に開催された地区諮問委員会において月信などで積極的に広報していくよう進言を頂きましたので、お伝えする次第です。今後、着々と具体的な活動内容が計画されていきますので、適宜地区のみなさまにお知らせしていきたいと思ひます。どうぞ宜しく願ひいたします。

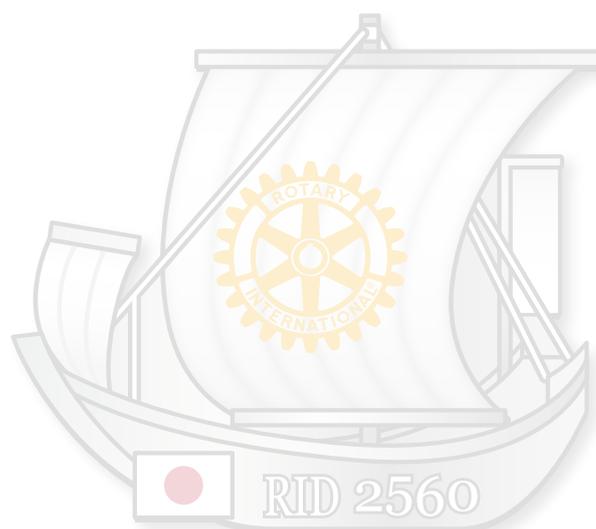
お伝えしたいもう一つのことは、事務職員の合同会議の開催についてです。

近年、ロータリーの業務は益々多様化し、また業務実施にあたって気を付けなければいけない事柄も複雑になっています。しかし、残念ながら当地区のロータリアンの数は減少傾向にあり、適切な業務実施を進めていくにあたってロータリアンの負担が大きくなっていくことが懸念されます。その際、益々無くてはならなくなるのが、各クラブや地区の事務職員の援けです。

しかし、これまで各クラブ同士の、あるいは地区と各クラブの事務職員の交流の機会が正式に設けられることはありませんでした。今年度ぜひそのような機会を設け、実務的な情報交換や、それぞれの実情や問題点などの共有を行っていきたいと思います。まずは6月28日にイタリア軒で最初の合同会議を開催する予定です。

この件についても、今後適宜皆様に状況をお伝えしていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

今後も各方面からの御意見を承りながら、無理のないように地区の業務を向上させ、みなさまのロータリー活動を支援していきたいと思います。引き続き御理解・御支援のほどお願い申し上げます。





第一回 交換留学生オリエンテーション、 クリスマス会開催

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 青少年交換委員会 副委員長

神谷 勇一 (糸魚川中央 RC)

2023-24 年度に 3 年ぶりに実施することになりました青少年交換プログラムに応募した長期派遣学生 1 名、短期派遣学生 3 名によるオリエンテーションが 12 月 17 日 ホテルオークラにて開催されました。

高橋ガバナーより「自分が派遣支援を受けるロータリークラブの事をもっと知ることによって派遣先での対応や自身の成長に役立つ」というアドバイスと具体的な検索方法を教えていただきました。

今回のオリエンテーションからは委員会の意向や 6 月 10、11 日に本県にて開催される「第 26 回日本青少年交換研究会 新潟会議」の関連も踏まえて交換留学プログラムの終了者であるローテックスを中心に運営を行いました。

今回は県内から 2 名、県外から 2 名のローテックスに参加いただきプレゼンテーション資料の作成、発表での留意点や実際に派遣先で体験したことなどを中心に進行していただきました。

参加した学生にとって年齢も近いローテックスのお話しは、貴重な情報提供であり真摯な態度で臨んでおりました。

今後は 7、8 月までに 3 回のオリエンテーションを経てそれぞれの目的地に出発となります。

また、オリエンテーション終了後はクリスマス会を開催し、やはりローテックスが中心になり進行し、ビンゴゲームや海外クイズなどで大いに盛り上げていただきました。

短い時間ではありましたが過去の 2560 地区に留学していたローテックスよりビデオレターや派遣学生とローテックスが直接話せる機会があり有益な時間を過ごすことができました。





年末年始献血キャンペーン あなたの愛を!!

新潟万代ロータリークラブ
インターアクト委員長
清田 明

令和4年12月18日(日)新潟市万代シティ周辺で第25回年末年始献血呼びかけキャンペーンを行いました。あいにくの雨や雪の天気で厳しい状況になりましたが、新潟4校(新潟明訓高等学校・敬和学園高等学校・東京学館新潟高等学校・日本文理高等学校)インターアクトクラブの生徒・顧問また合同実行委員会のご協力のもと無事に呼びかけ活動を行う事が出来ました。

コロナ禍の為、2年遠ざかっておりました新潟万代シティ周辺での献血キャンペーンをコンサートイベント、その場での飲食を含む昼食、打ち上げパーティーなどは行わず呼びかけを中心とした活動を行いました。

午前はロータリアン中心に献血や配布チラシの準備を行い、インターアクトの生徒たちは午後より集まり開会の挨拶後、万代シティ周辺で雪も降る中、元気よく決められた場所で丁寧に呼びかけを行っておりました。年末から1月・2月の冬の期間は輸血用の血液が不足するとのことで大事な活動と再認識をいたしました。

当日、受付41名、採血36名、また当日以外も含め、ばんだいゆとりろ様へ受付134名、採血125名の方々にご協力をいただきました。(新潟県赤十字血液センター様より報告)

最後に、準備から開催まで打合せご協力をいただきました赤十字血液センター様、ロータリアン各位、各学校の顧問の先生並びに関係者の方々に心より感謝申し上げます。今後も伝統ある活動が続くことをご祈念し報告と致します。





IA 献血キャンペーン

高田東ロータリークラブ
青少年奉仕委員長
大島 隆一郎

去る12月18日(日)イオン上越店にて、今年度のIA献血キャンペーンを開催することができました。

冬期間は血液の安定供給が求められ、血液不足を補うための献血の呼びかけと、RC・IAC・RACの公共イメージの向上を目指してのPRを目的としたこの活動には、上越高等学校インターアクトクラブから10名、関根学園高等学校インターアクトクラブから2名、高田ローターアクトクラブから3名、そして高田東ロータリークラブ12名、総勢27名の参加をいただき活動致しました。

当日の悪天候で、新潟市から来る献血車両が到着するか危ぶまれましたが、無事に到着し開催にこぎつきました。また、暴風雪という大荒れの天候で献血者数や来場者の出足も心配しましたが、概ね目標の献血者数を達成することができました。

献血者数といたしまして、残念ながら6名の方が事前検査で献血できませんでしたが、献血受付人数74名、献血実施人数68名の方にご協力いただきました。

また、活動当日に地域新聞「上越タイムス」の取材を受け、12月20日(火)に記事が掲載され、ロータリーの公共イメージ向上にも貢献できました。

開催にあたり、上越市健康子育て部健康づくり推進課と新潟県赤十字血液センター事業推進部献血推進課よりご協力をいただき、参加いただいた皆様に感謝申し上げ、IA献血キャンペーンの報告とさせていただきます。





米山記念奨学委員会報告

国際ロータリー第 2560 地区
2022-23 年度 米山記念奨学委員会 委員長
渡邊 嘉子 (新津中央 RC)

皆様こんにちは！日頃より米山奨学事業にご理解とご協力をいただきまして、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

米山記念奨学委員会では1月14日（土）に2023学年度米山記念奨学生の面接と選考会を行いました。詳細は後のページで選考委員会よりご報告いたしますが、各クラブの皆様には奨学生の世話クラブ・カウンセラーのお引受けのご協力をお願い致します。そして奨学生と心の交流していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

しかし今年度はまだあと5ヶ月ございます。2月4日（土）には今年度クラブ会長・米山委員長を対象としたセミナーを「米山奨学事業の成果と寄付金について」というテーマで行います。少しでも米山奨学事業の理解につながればと思っております。

そして今年度からは学友会活動も活発に行っております。後のページに報告がございますが、今後はロータリアンの皆様と学友との交流につなげていきたいと思っております。

今期これからも、奨学生・学友会と委員会の活動はひきつづきでございます。

今後とも、米山奨学事業にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。





2023 学年度 米山記念奨学生選考会について

国際ロータリー第 2560 地区

2022-23 年度 米山記念奨学委員会 奨学生選考委員長

小林 達 (新潟北 RC)

国際ロータリー第 2560 地区米山記念奨学委員会は 1 月 14 日 (土)、万代シルバーホテルで 2023 学年度米山記念奨学生選考会を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染第 8 波の中、感染防止策をしっかりと取りながらの実施となり、また、もう一つの心配ごとでもあります大雪による公共交通機関の乱れはなく無事に予定通りの開催となりました。

選考会は、事前に 12 月 24 日書類選考を行い、申込書の確認・指導教員からの推薦状・研究内容・日本留学の目的などその熱意や具体性そして将来性について評価をしました。

当日の面接選考会では、47 名の応募者を午前の部と午後の部に分けて、5 班に分かれた 20 名の面接官によって個人面接を実施し、全 34 地区共通の選考基準（評価項目）で日本留学の目的や将来の目標、ロータリーへの関心度、人柄や人間性、異文化への理解やコミュニケーション能力を評価しました。

その後、グループディスカッションでは、当日のテーマについて 7～8 人のグループに分かれて司会、書記、タイムキーパーを決め進めていき、その中でリーダーシップ・協調性・論理的思考力などを評価しました。そして最後に面接官全員で合格選考会を行い、採用が 1 カ国に偏らないなどの地区裁量の選考基準で奨学生を最終決定しました。

その結果、16 名の奨学生を選考。2023 学年度の奨学生は、継続の 8 名を加え 24 名となります。選考会を突破した学生たちは、全員が米山奨学生としてふさわしい優秀な学生達です。

今後は、この新規 16 名の奨学生の受け入れ先として選ばれたクラブに世話クラブとカウンセラーの選出をお願いいたしますので、その際には是非とも快くお引き受けいただけますようお願いいたします。

この奨学生たちは、ロータリアンと交流しながらロータリーの奉仕の精神や学業だけでは得られない多くの貴重な経験や知識を得て、将来母国と日本との懸け橋になって国際社会で活躍する人材として成長してくれるものと思います。

これからもロータリアンの皆様の米山記念奨学生事業に対してのご理解とご協力をお願いいたします。

2022年12月3日開催 「国際料理交流会」のご報告

国際ロータリー第2560地区米山記念奨学部門学友会は12月3日にて「国際料理交流会」活動を開催しました。当会では参加者方々が母国の料理をお一つずつ作って持って、それぞれの料理を紹介したり、試食したりする楽しい交流会を行いました。当日は3人のロータリアン、10人の米山奨学生・学友を含む、総勢13人が参加しました。参加全員で料理交流会の準備をしながら、各料理の美味しい香りに誘われ、使った食材及び調味料について詳しく説明していただいた後、美味しい国際料理交流会を行いました。一つの食卓で日本の「寿司、和菓子」、インドネシアの「ナシゴレン」、メキシコの「タコス」、ミャンマーの「オンノ・カウスエー」、モンゴルの「チエイ、ホーショル」、ハンガリーの「グヤーシュ」、カザフスタンの「プロフ」等7国の料理を提供し食べられる機会を頂いたのは米山学友会の活動をおいて他にない。この国際料理交流会は新潟米山学友会の2回目の活動となり、奨学生・学友にとって母国の美味しい料理を紹介し交流することで母国のことを一つの分野から広げるチャンスと他国のことも知るチャンスをもらったのでは貴重な時間を過ごすことができました。ご協力いただいた参加者の皆さんに、心より感謝いたします。今後は奨学生に対して、奨学期間終了後も学友会にて活動してもらおうためLINE交換もしました。



料理交流会を行う米山奨学生・学友

2560 地区みんなで楽しくクリスマス会

コロナ感染拡大が始まって2年以上経ち、なかなか大勢で集まることができない日々が続きました。お互い顔を合わせて、輪になって手をつないで楽しい例会での交流がしばらくの間できませんでした。今年に入ってやっと少しずつではありますが、対面の例会や活動が復活しつつあります。そんな中、我々2560地区新潟米山学友は、10月から毎月現役奨学生とロータリアンと共に様々なイベントを企画してきました。現役奨学生と学友の、現役奨学生を含む学友とロータリアンの、地域社会と留学生のつながりを深めるため、「中学生留学生の国際交流会」、「多国籍料理交流会」、「クリスマス会」を行いました。

昨年の締めとなったのは12月24日(土)の「クリスマス会」です。この日は2560地区の奨学生、学友、カウンセラー、ロータリアンの皆さんと一緒に2022年を送り出すことができました。30名以上のメンバーが集まってお互いの近況を語り合いながら、新しいつながりも生まれ楽しいひとときを過ごしました。日常だと聞けないお互いの母国のことも学び合う機会にもなり、改めてロータリー米山記念奨学会は国境を越えた組織だと気付かされました。

そして新しい2023年はより楽しく、活発に、親密に、米山学友会の輪を広げて、社会に貢献できるように活動していくことを目標にしています。

国際ロータリー第2560地区米山学友会

2023年1月



第 2560 地区 2022-23 年度 12 月末 会員数報告

R	C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	12月末 会員数	うち女性 増減		
第1分区 (9クラブ)				-	372	377	36	5
		3	31.5%	88	89	0	1	
		4	20.5%	38	39	9	1	
		3	28.1%	33	32	1	-1	
		0	91.5%	44	47	3	3	
		4	21.1%	38	38	4	0	
		3	17.4%	23	23	2	0	
		3	4.3%	45	46	4	1	
		0	52.8%	36	36	7	0	
		4	25.9%	27	27	6	0	
第2分区 (9クラブ)				-	426	444	31	19
		3	24.7%	79	89	3	10	
		4	18.8%	63	64	8	1	
		3	33.6%	108	113	6	5	
		3	80.0%	5	5	0	0	
		4	47.5%	38	40	2	2	
		2	13.5%	38	37	4	-1	
		3	29.7%	35	37	1	2	
		2	44.4%	18	18	0	0	
		3	52.4%	42	41	7	0	
第3分区 (5クラブ)				-	89	91	5	2
		3	16.7%	18	16	1	-2	
		4	50.0%	10	12	0	2	
		4	29.0%	30	31	1	1	
		4	38.5%	26	26	3	0	
		4	0.0%	5	6	0	1	
第4分区 (11クラブ)				-	350	360	26	10
		3	10.5%	55	57	0	2	
		4	8.6%	33	35	2	2	
		4	6.9%	32	29	4	-3	
		3	17.9%	35	39	2	4	
		4	78.6%	29	28	4	-1	
		4	5.0%	21	20	1	-1	
		2	3.6%	28	28	3	0	
		3	9.4%	54	53	2	-1	
		4	3.7%	25	27	3	2	
		4	14.3%	6	7	2	1	
		4	5.4%	32	37	3	5	

R	C	例会数	My Rotary アカウント 登録率	会 員 数				
				2022年 7月1日	12月末 会員数	うち女性 増減		
第5分区 (7クラブ)				-	288	295	25	7
		2	73.9%	44	46	3	2	
		2	2.4%	40	41	0	1	
		3	25.5%	52	55	4	3	
		2	18.6%	43	43	2	0	
		4	13.6%	21	22	1	1	
		4	18.4%	49	49	3	0	
		2	23.1%	39	39	12	0	
第6分区 (6クラブ)				-	116	118	12	2
		3	27.3%	31	33	4	2	
		3	10.7%	28	28	4	0	
		3	19.2%	25	26	3	1	
		3	0.0%	14	14	0	0	
		4	18.2%	12	11	1	-1	
		3	16.7%	6	6	0	0	
第7分区 (7クラブ)				-	313	310	22	-3
		4	34.3%	70	70	4	0	
		3	38.0%	72	71	6	-1	
		3	11.4%	35	35	1	0	
		4	92.9%	41	39	3	-2	
		3	68.6%	35	35	3	0	
		4	55.6%	27	27	0	0	
		4	93.9%	33	33	5	0	

クラブ数	54 クラブ
7月1日会員数	1,954 人
12月末会員数	1,995 人
女性会員数	157 人
純増減会員数	41 人
My Rotaryアカウント登録率	29.6 %

地区主要行事予定

2023年1月20日現在

年 月 日		行 事		会 場	
2023年 (R5) 高橋年度	2月	平和構築と紛争予防月間			
		4	(土)	第2回米山記念奨学委員長セミナー	ホテルオークラ新潟
		4	(土)	第2回派遣学生オリエンテーション	ホテルオークラ新潟
		18	(土)	第2回地区ロータリー財団セミナー 兼 補助金管理セミナー	ホテルオークラ新潟
	3月	水と衛生月間			
		4	(土)	米山記念奨学生終了式・歓送会	ホテルイタリア軒
		11	(土)	米山年度 クラブ会長エレクト研修セミナー (PETS)	ジオ・ワールドVIP
		18	(土)	村松RC創立60周年記念式典	割烹 松の家
		18	(土)	ローターアクト地区大会	ANAクラウンプラザホテル新潟
		25	(土)	社会奉仕セミナー	ホテルオークラ新潟
		25~26	(土~日)	全国ローターアクト研修会	金沢
		未定		温暖化対策勉強会	長岡市
				インターアクト海外研修 →中止	

【新入会員】

(敬称略)

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
柏崎東	長井 信栄	2022.12.05	(株)ナガイ	社長	電子装置製造業
新発田城南	竹本 輪加	2022.12.22	(有)珈琲倶楽部	専務取締役	飲料品販売業
越後魚沼	風間 勇人	2023.01.06	玉川酒造株式会社	代表取締役	酒類製造業
新発田城南	三善 毅	2023.01.12	(株)三善鉄工所	代表取締役	鉄骨・鉄筋工事業
高田東	椿 卓士	2023.01.16	株式会社タマルヤ	代表取締役社長	プラスチック製品
長岡	渡邊 淳也	2023.01.17	渡邊大工	代表	建築業

【訃報】

(敬称略)

RC	氏名	逝去日	会社名	役職	職業分類	経歴・その他
新発田中央	神田 敬一	2022.12.23	(株)神田エンジニアリング	代表取締役	建築工事	2015-16年度 クラブ会長



第3地域 ロータリーコーディネーター補佐 庄司 尚史 (境港)

ガバナーエレクトの皆さんは大変忙しい時期になりました。1月の国際協議会にご苦労さまでした。3年ぶりのリアルでの集まり、初めてのオランダでの開催と興味津々です。次年度に向けてゴードン R.マッキナリーRI 会長エレクトの方針をそれぞれの地区でどう具現化するか検討中だと思います。

「世界に希望を生み出そう」というテーマの中に世界平和を目指すロータリーの並々ならぬ意欲を感じます。すべてのロータリアンが一日も早くウクライナに平穏な日々が戻ることを望んでいます。

ゴードン会長エレクトのテーマ講演の中で私が驚いた数字の発表がありました。それはポリオプラスに関するものです。「ポリオ根絶キャンペーンに寄付をしているロータリー会員は12人に1人に過ぎない。毎年寄付をしているクラブは5分の1を下回っている」というものです。RIの最優先課題のポリオ根絶のためにまだまだ努力が必要だと感じました。日本では佐藤芳郎RI理事のご提唱で、昨年10月24日の世界ポリオデーのイベントが全国各地で開催されました。11月のロータリー研究会でフォトコンテストがあり大変好評でした。次年度も引き続き開催してほしいという声をあちこちから聞きました。日本からポリオ根絶の盛り上がりを世界に広げたいものです。次年度との連携が大切です。ポリオ根絶のテーマを是非次年度に引き継いでいきましょう。

今年度もまだまだ時間が残っています。コロナ禍の中でクラブの活力はいかがでしょうか？ ガバナー、クラブ会長の皆さんの頑張りどころだと思います。RI細則16.030にはガバナーの任務が明記してあり、その(a)には「新クラブを結成すること」とあります。お忘れになっているガバナーもいらっしゃるでしょう。大変ハードルが高い任務だと思いでしょ。私も実現できませんでした。今年度達成した地区は僅かですがあります。まだの地区は衛星クラブを検討されてはいかがでしょう？ 8人揃えば結成できます。スポンサークラブの会長の実行力に期待です。地区として後押しをお願いします。

会員増強もご苦労が続いています。国内の会員数は2022-23年度10月末のデータ（ロータリーの友1月号）を見ると対前年比335人の減少です。私が所属するクラブは2名の純増ですが次年度に向けて検討していることがあります。それは「法人会員」制度の導入です。ロータリーの名前は知っているが実際に時間が取れない等しり込みをされている法人があります。クラブに代理の社員さんを派遣していただくことは双方にメリットがあると考えます。皆さんもご検討してみてください。



第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター補佐 簡 仁一（茨木）

今年度から第3地域ロータリー公共イメージコーディネーター補佐を拝命しました茨木 RCの簡仁一と申します。よろしくお願いいたします。

ロータリー公共イメージコーディネーターは今年度、佐藤芳郎 RI 理事から要請を受け、世界ポリオデーの広報を担当し、ポータルサイトを立ち上げました。各地区、各クラブが独自に実施していた行事を計画段階から一元化し、情報を共有することで、活動をこれまで以上に活性化することが目的です。2021年に2750地区が実施した「トレインジャックプロジェクト」など、他クラブの実施事例も紹介されています。

また、世界ポリオデーイベントとして「フォトコンテスト」を開催しました。ポリオ根絶への願いを伝える写真を募ったところ、157点が集まりました。

地域リーダーによるウェブ投票で10点の入賞作が決まり、昨年11月にロータリー研究会の会場となった神戸ポートピアホテルに展示しました。熱心に見入る方々が多く、研究会では、ジョーンズ RI 会長賞など5点が表彰されました。

ジョーンズ RI 会長賞に選ばれたのは、「やったあー！」というタイトルからも伝わる、熱い思いが込められた写真です。昨年の世界ポリオデーにあわせて、2750地区の宮崎陽市郎ガバナーエレクト（東京三鷹 RC）が、北海道の宗谷岬から鹿児島島の佐多岬まで3週間余りをかけて日本縦断を敢行し、ゴールされた瞬間をとらえています。お酒を断って準備にあたり、成し遂げられた宮崎ガバナーエレクトの表情とともに、シャンパンをかけて祝う鹿児島西 RC の仲間の笑顔にも魅せられます。

ほかにも、募金箱を手に街角に立つ少女や、東大寺の大仏に願いをささげるローターアクターの姿など心あたたまるカットも数々あり、“名カメラマン”の皆さんの視点と腕に感じ入りました。

ポリオの症例は1988年以来、99.9%減少し、現在もポリオが常在する国はアフガニスタンとパキスタンの2か国のみです。

ポータルサイト、そして、皆さんの気持ちを凝縮した写真が寄せられたフォトコンテストが、ポリオ根絶実現に少しでも役立つよう願っています。





第3地域 ロータリー財団地域コーディネーター補佐 吉原 久司（尾道）

第3地域ロータリー財団地域コーディネーター補佐に就任して1年目が終わろうとしていた頃、先輩コーディネーターから「地域リーダーがそれぞれ個別に活動していたのでは、効果が分散してしまうので、出来るだけ多くの地域リーダーを巻き込み、集中した活動をするように。」と助言されました。

その最も重要な活動は、佐藤芳郎 RI 理事が推奨された「日本 POLIO-DAY」を実施し、みんなでポリオプラスを盛り上げようということでしたが、残念ながら、私の地区・クラブでは、準備不足のため、中途半端に終わってしまいましたので、反省を込めて、次年度に向けてのアイデアをご提案してみたいと思います。

「地域リーダーを巻き込んだ集中した活動」の具体的なイベントとして、ゴルフ大会、野球大会といった運動系、ヒストリックカー、ラリー、ドライブなどの趣味系、ワイン、料理などの家族会系、地域に以前からある祭りに協賛する地域密着系などがあります。いずれにしても大切なのは、その活動をどのようにメディアにアピールしてもらうか、そしてロータリアンのみならず、ローターアクター、インターアクター、その他の地域の方々にどれだけ結集できるかにかかってくると思います。

例えば、ポリオプラスのイベント企画し開催する場合の道筋として

- ① イベントを企画・開催と地域リーダー
チャリティー等の企画・開催 ⇒ RRFC・EPNC
ラジオ・新聞・テレビ等メディアを通してアピール ⇒ RPIC
ロータリアンだけでなく幅広く地域の人々を結集して開催 ⇒ RC
- ② 開催したイベントについて、報告会や表彰をする機会を持つ
オープン例会を開催し、幅広い形で周知する ⇒ RC
地区大会での表彰、ガバナー月信、地区ホームページで取り上げる ⇒ RPIC
- ③ イベント等のコミュニケーションの場を借りて入会勧誘を行う ⇒ RC

RRFC(ロータリー財団地域コーディネーター)、EPNC(ポリオ根絶コーディネーター)、RPIC(ロータリー公共イメージコーディネーター)、RC(ロータリーコーディネーター)は、いつでも、各クラブ・地区への協力を惜しみませんので、お声がけ頂ければと思います。

ガイ・ガンディカー氏(1923-24RI 会長)は「ロータリー通解」＜自己の職業分野と社会に対するロータリアンの義務と責任＞の中で、ロータリアンがクラブの中で学んだことを、自己の職業分野や地域の方々に進んで啓蒙するようにと説いており、平素からロータリーの原理と理想を説き、ロータリーの他人に対する思いやりの精神とロータリーの職業倫理基準を伝える義務を負っているとまで述べています。

「地域リーダーを巻き込んだ集中した活動」など、色々なイベントを開催するにあたり大切なのは、こういった日常のロータリアンの活動であり、引いては、これらが会員勧誘に通ずる重要なことであると痛感しました。



1. 2人目の紺綬褒章受章者が誕生

国際ロータリー第2750地区（東京都）東京中央RC会員の大津 穰氏が、ロータリー米山記念奨学会への寄付により、昨年9月27日に紺綬褒章飾版を受章され、12月15日の同クラブ例会にて褒章伝達式が行われました。

当会では2018年9月に紺綬褒章の公益団体認定を受けて以来、大津氏が2人目の受章者です。紺綬褒章は、公益のために私財を寄付した者に与えられ、飾版は、すでに褒章を受章した者が同種の褒章を受章した場合に授与されます。大津氏は他団体への寄付を含め、自身2度目の受章となります。褒章伝達式当日は、お祝いに駆けつけた同地区の三浦眞一理事、柳田一行米山記念奨学委員長がご臨席のもと、当会の相澤光春副理事長から褒章が伝達されました。

大津氏は、「紺綬褒章の受章を大変嬉しく思い

ます。今後のロータリーの発展と、米山記念奨学事業が目指す、世界平和の実現のために力になれるように努めてまいります」と述べ、会員の皆さまから温かい拍手が送られました。



褒章を受け取った大津氏(中央)

2. 寄付金速報 — 下期普通寄付のお願い —

前年同期比

+ 7.4%

普 - 1.1% 特 + 10.6%

12月までの寄付金は前年同期と比べて7.4%増（普通寄付金:1.1%減、特別寄付金:10.6%増）、約6,300万円の増加となりました。12月単月の特別寄付金において

は前年より2,600万円増となり、2009年度以降で最大の寄付額となりました。高額寄付の件数も多く、皆さまからのご支援に深く感謝申し上げます。1月中旬には「2022年度下期普通寄付金のお願い」を当会から各クラブへお送りする予定です。年初早々からのお願いとなり、大変恐縮ではございますが、今後ともご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

3. 次期地区米山奨学委員長セミナー開催報告

12月7日、2023-24年度地区米山記念奨学委員長を対象とする第1回セミナーを、感染対策を徹底した都内会場で開催しました。

午前の部は、若林紀男理事長の挨拶、神野重行常務理事の講話から始まり、寄付、学務関連について事務局から説明。滝澤功治副理事長からは、学友会に関する規程についてご説明いただきました。

午後の部では、事務局から広報関連、来年8月開催予定の「再会 in 関東」について紹介。事例発表として、大久保章宏理事から、今や第2800地区（山形）の地区大会シーズン恒例行事とな

った「米山ナイト」の取り組みについてご紹介いただきました。同じく事例発表として、第2700地区（福岡・長崎・佐県）の吉田廣幸次期米山委員長から、同地区の寄付増進の取り組みについてご紹介いただきました。その後、4グループに分かれて「寄付増進について」、「指定校選定と奨学生選考について」、「学友・学友会について」、「奨学生の選考と危機管理について」などをテーマにディスカッションと各グループからの報告が行われ、質疑応答を経て、井原實常務理事の講評で締めくくられました。

4. 台湾米山学友会が総会を開催

12月10日、台湾米山学友会の年次大会が台北市内で開催され、同時にオンラインでもライブ配信されました。3年ぶりに国外からの会場参加が可能となった今回、台湾在住学友とロータリアン、そして、同学友会が支援する日本人奨学生のほか、日本からも多くの参加者が現地に集まりました。

総会は、林志昇^{リン シン ショウ}理事長（1992-94/津RC）の開会の挨拶で幕を開け、韓国米山学友会の全炳台^{ジョンピョンテ}会長（1980-83/仙台北RC）、当会からは、滝澤功治副理事長が出席し、日ごろからの積極的な支援活動への感謝を述べました。また、同学友会は独自で現地日本人奨学生を長く

支援しており、会場参加した奨学生5人が流ちょうな中国語で自己紹介を行い、温かい拍手が送られました。久々の対面での総会で、改めて米山のつながりを確認することができた同学友会は今年、節目の創立40周年を迎えます。



5. ウクライナから避難した学友の言葉

ウクライナ出身の米山学友、コベリャンスカ・オクサーナさん（1998-99/奈良RC）が12月15日、自身の世話クラブであった奈良RCの例会にて卓話を行いました。オクサーナさんは、ウクライナ情勢悪化を機に、母国からの避難を余儀なくされ、米山奨学生時代に自身の留学先であった天理大学と天理市のサポートにより来日。2022年4月から、同大学の職員として勤務しています。オクサーナさんによる、スピーチの冒頭の一部をご紹介します。

「私は1995年に天理大学に留学し、98年に奈良RCの米山奨学生になりました。当時のウクライナは旧ソビエト連邦から独立し、経済や政治体制の構築を始めたばかりで、国家的に大変な時期でした。来日後も、両親からの支援は

望めず、生活費を稼ぐので精一杯でした。米山奨学生になれたことは、勉学に集中できることを意味し、とてもありがたかったです。最初に参加した例会で、奈良RCの会長が『この奨学金は、学生を支援するためのものです。勉強する時間を確保するためのものです。そして帰国後は日本に関連した活動を続けてほしい。それぞれの国で、日本語や日本文化を広め、自国との国際関係を促進することを望んでいます。これが、私たちの未来への貢献です。それを忘れないでください』と、仰いました。この言葉は今でもはっきりと覚えています。初めて奨学金をもらったとき、喜びだけでなく、自分の中で責任感と覚悟を感じました。会長の言葉の通り、私はこれまでに、約30の研究論文、4冊の辞書、2冊の日本語・日本文化学習者向けの教科書を出版するなど、人生の大半を日本と関わりながら過ごしてきました。今回、このようなご支援をいただいた、母校の天理大学と天理市、そして日本の皆さまに心から感謝の気持ちを申し上げます。ロータリー米山記念奨学会の事業は、日本語や日本文化を世界に広めるためにも重要な活動であることをお伝えしたいと思います。米山の繁栄と、多くの感謝の気持ちを持った学生たちが、それぞれの国で日本との国際関係を強化するために活動を続けてくれることを祈念します」。



卓話を行うオクサーナさん